

医療従事者不足 2024.11

医師をはじめ医療従事者の減少は地域の社会生活に大きな影響を及ぼします。

◎医師だけができること。

医師法では、医師でなければ、医業をなしてはならないと定めています。医業とは、患者を診断し治療することです。処方箋の発行、各種診断書、介護保険認定のための主治医の意見書発行なども含まれます。各種の健康診断の判定も医師の仕事です。訪問看護や訪問リハビリなどで、看護師、理学療法士などの行う医療行為は医師の指導や指示がなければ行えません。学校医、産業医、特別養護老人ホームの配置医なども医師の仕事です。

◎医療従事者不足

地域の医療活動は多岐にわたっているのでマンパワー不足は社会生活を維持していくうえで大きな影響を及ぼします。病院はチームワークで動いています。マンパワー不足は受診したい診療科の減少、外来待ち時間の増加、入院管理、救急体制、当直などの運営が困難となり、医療サービスの低下が進行します。

◎医師側から見た医師不足の原因

多くの医師は常に技術を高め、社会の要請に応ずるために専門医の資格取得・維持を目指しています。赴任病院を選ぶうえでも症例の多い病院、指導医のいる病院を希望します。医師の勤務時間を制限する働き方改革は非常勤医師の減少をまねいています。勤務地が居住地から遠く通勤が困難なことも原因の一つです。

◎地域医療を守るために

今後益々の人口減少とそれに伴う患者数の減少や病院を支えるマンパワーの減少によって、現在の病院規模を縮小した病院運営が必要となってくるでしょう。またマンパワーを地域外に頼るのでなく地元出身の人材の活用も考えていく必要もあります。

高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、適切な療養環境を提供する身近な地域の医療機関の存在が重要です。地域医療を守るために、医療従事者を含め市民一人一人ができることを考え、行動していきましょう。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦。